

## 令和4年度住宅火災における避難に関する検討会（第1回）

### 議事要旨

- 1 日時：令和4年8月29日（月） 10時00分から12時00分まで
- 2 場所：岡山市北消防署防災研修室
- 3 出席者  
委員等（敬称略、順不同）  
松多委員（座長）、竹内委員（副座長）、水口委員、立古委員、高木委員  
小西委員代理（都知木）、西山委員代理（香春）、上野委員代理（塩瀬）、  
上田委員、白獅子（オブザーバー）  
事務局  
消防局予防課 加藤課長以下6名
- 4 配付資料  
資料1－1 検討会設置要綱  
資料1－2 委員等名簿  
資料2 検討の背景・目的等について  
資料3 VRを活用した避難トレーニングソフトについて  
資料4－1 避難のリーフレットについて  
資料4－2 避難のリーフレット（案）  
資料5 動画について  
資料6 効果的な広報モデルについて  
資料7 避難のガイドラインについて  
資料8 検討の進め方・スケジュールについて  
参考1 「住宅火災における最適な避難のガイドライン」作成に向けての報告書
- 5 議事内容（◎座長発言、○委員発言、●事務局発言、■オブザーバー発言）
  - (1) 検討の背景・目的等について  
●資料1－1、資料1－2、資料2により説明を行った。
  - (2) VRを活用した避難トレーニングソフトについて  
●資料3により説明を行った。  
○竹内副座長  
以前のリアルな火災とは違った形のVRに仕上げてもらっていると感じた。実際に火事をVRで体験する中で、今回はどういった点に気をつけて作ったか。

■オブザーバー

前回との違いとして、2階建て住宅で発生した火事から避難体験をするようにしている。また、時間制限を新たに付け加えた。制限時間を過ぎると、避難失敗となることで、緊張感をもってもらえるよう、システム構築時に気をつけて作成した。

○竹内副座長

承知した。幅広い年齢層が、自宅に近い感覚で体験できると思う。

◎松多座長

すぐに避難するのではなく、消火しながら避難することも可能か。

●事務局

可能である。設定時間が調整できるため、60秒以内に設定すると、消火できない仕様となる。

◎松多座長

設定変更することで、様々な立場の方に対応しており、自分の特徴に応じた設定にできるということによろしいか。

●事務局

そのとおりである。

◎松多座長

承知した。

(3) 避難のリーフレットについて

●資料4-1、4-2により説明を行った。

◎松多座長

非常にリアルな炎で描かれた表紙と、行政向けのわかりやすい表紙の2種類が候補としてあるが、どちらの方が良いか、意見を願います。

○女性防火クラブ連絡協議会（水口）

単純に炎の表紙の方が、市民に分りやすいと感じる。

○地域包括ケア推進課（立古）

私も、リーフレットを見て内容がわかりやすくなるのが大事であると考えため、炎の表紙の方が良いと思う。

○高齢者福祉課（高木）

よくあるデザインの方は、インパクトがなく、埋もれてしまう恐れがある。市民に広く配布するならば、炎の表紙が良いと思う。

◎松多座長

行政向けのわかりやすい表紙の方が良いという意見はあるか。

○教育委員会事務局学校教育部指導課（香春）

個人的には、炎の表紙の方がインパクトがあるため、表紙を見た際に、火事の恐ろしさ等を考えると思う。

一方で、教育委員会の立場として配布する対象を考えると、子どもが炎の表紙を見た際に、もし火事によって家をなくしてしまった等、火事に対してトラウマがある子は、炎の表紙を見るだけで、その時のことがよみがえってしまったりすると考える。これらのことを加味した上で、行政向けの表紙の方が良いと思う。

○障害福祉課（都知木）

同じ意見である。

◎松多座長

私も同じ考えである。事務局に質問するが、配る対象によって表紙を変更することは可能か。

○事務局

展開方法は、この検討会で話を進めていこうと考えているが、3年程度を目途に全戸配布を検討している。そのため、対象によって表紙を変更することは難しいと考える。

◎松多座長

判断が難しいが、いかに啓蒙していくのかというところが趣旨として重要であると考え、インパクトが強い方を選ぶのが良い。ただし、懸案事項もあがったことから、事務局で検討していただき、最終的な判断をしていただきたいがよろしいか。

○竹内副座長

その方向で良いと考える。私も仕事柄、震災映像等をお示しするときは、気をつけて提供している。その点を鑑みると、炎の表紙は、人によって怖さを感じると思う。

一方で、火災について、しっかり考えてもらうためには、メッセージ性がある程度必要であると考え、折衷案として、炎の大きさを小さくする等も検討していただきたい。

●事務局

承知した。

◎松多座長

次に、「火災から命を守る4タイプ診断テスト」を実施した上で、意見をいただきたい。

○地域包括ケア推進課（立古）

「住宅用火災警報器の音を聞いたことはありますか。」という問いに対して、自分の家で聞いたことがあるかという意味か、一般的に音を聞いたことがあるかという意味なのかわからなかった。映像等で音を聞いたなら聞いたことになるという認識でよいか。

●事務局

意図としては、自分の家の住宅用火災警報器の音を聞いていただきたいと考えている。文言の補足を検討する。

○障害福祉課（都知木）

点数を意識して回答するおそれはないか。

●事務局

それを防ぐために、「直感で書いてください」と補足している。

○生涯学習課（塩瀬）

回答によって点数が、0と1以外の点数もあるため、計算を間違ってしまうのではないか。

●事務局

質問項目によって、点数の比率を変えている。昨年度の検証結果を参考に点数配分をしている。

○岡山市教育委員会学校教育部指導課（香春）

実際のリーフレットの大きさはA4サイズか。

●事務局

そのとおりである。

○高齢者福祉課（高木）

共同住宅の場合は、「寝室は何階にありますか」という質問に対して1階と答えた場合、その後の質問に「階段に手すりはありますか」という質問がある。何か補足があると良い。

●事務局

承知した。

○竹内副座長

昨年度に比べて、出来上がってきたように感じる。良いと思う。

○障害福祉課（都知木）

聴覚障害者についての質問は記載されているが、視覚障害者等の記載は必要ないか。

●事務局

聴覚障害者についての質問は、約70年前の岡山豊学校寄宿舎において、16人の聴覚障害者の生徒が亡くなった火災事例を教訓に記載している。聴覚障害者以外については、検討ができていない。

○女性防火クラブ連絡協議会

一人暮らしの方が一人で避難すれば良いという視点が入っていないように感じる。

◎松多座長

すぐに反映はできないと思うが、今後事務局で検討していただきたい。確かに、一人暮らしの方が避難はしやすいが、避難が遅れるかどっちに転ぶかは、状況によって違ってくると思う。高齢者の逃げ遅れの原因は、体が動かしにくい等という理由で検

討してきたが、逆に、住んでいる人数が少ない方が逃げ遅れるという視点もあるため、データ分析するときに考えていく必要がある。

◎松多座長

4タイプ診断テスト内のネーミングは、AタイプからDタイプとしている。昨年度の検討会において動物の名前にしたらどうかという意見が出た。何かよい意見があれば教えていただきたい。

●事務局

補足として、点数は、住環境等が反映されるため、点数による良し悪しはない。避難をした方が良い場合もあれば、消火をした方が良い場合もある。それが判断できないと逃げ遅れが発生するので、まずは自分の特徴を知ってもらうことを趣旨としている。

○岡山市教育委員会学校教育部指導課（香春）

確かに小学校では、よく動物等に置き換えることはあるが、すぐには思いつかない。先ほどの補足になるが、小学校高学年であれば4タイプ診断テストの実施は可能であるが、小学校低学年は、学習していない漢字があるため、読み切れないと思う。ルビを入れていただきたい。

○生涯学習課（塩瀬）

私も、ルビは必要であると思う。

タイプ別に分類することで、傾向がわかるので、それを自覚することが大切である。リーフレットの下にある、吹き出し内のコメントがわかりやすい。

○障害福祉課（都知木）

動物に置き換えて、例えばウサギとカメとつけると、ウサギは良いイメージだと思うので、事務局の意向を鑑みるとアルファベット表記が良いと考える。

◎松多座長

名前に特色をつけない方が、良いのかもしれない。タイプ別に特徴を記載しているので、このままアルファベット表記でよいか。

●事務局

それでは、現状のとおりとしてすすめていく。

◎松多座長

マイタイムラインの確認であるが、A・Cタイプならば5つ、B・Dタイプならば7つ行動を選ぶことができる。スタート時は、火災に気づくことを想定して、どのように火災に気づいたのかというところをチェックしてもらう。また行動の選択肢は、たくさんあるが、たくさん選ぶことができないことを自覚してもらい、考えてもらうという趣旨でよいか。

●事務局

そのとおりである。

○障害福祉課（都知木）

選ぶ項目が多く、どれを選べばよいかわからないため、私は火災を確認して、寝室のドアを開け、家族を救出すると思う。消火をするかどうか迷って終わってしまった。

○地域包括ケア推進課（立古）

説明を読むと理解できた。

○高齢者福祉課（高木）

避難までに可能な行動が明確になっていて良い。「大声を出す」と「消火器を使う」という行動は、同時でも良いと感じたが、選択肢がわかりやすくなっていれば支障ないと思う。

○岡山市教育委員会学校教育部指導課（香春）

事前に説明を聞いていればわかりやすい。

○生涯学習課（塩瀬）

他の委員と同じ意見である。

○竹内副座長

行動の選択肢の多さに戸惑う。広い世代を対象とするならば、簡素化や、シナリオを一つにする等、もう少し検討が必要だと思う。

◎松多座長

私も副座長と同じ意見である。例えば選択支枠を色分けや並べ方の工夫等、行動を分類分けしてはどうか。整理すると選択しやすいと思う。

●事務局

選択肢の趣旨としては、様々なことを想像してしまう煩雑な頭の中をイメージしている。その頭の中を整理するという作業をこのマイタイムラインで実践してもらいたい。

◎松多座長

趣旨は良いと思う。このマイタイムラインは、自分の頭の中がいかにか混沌とした状態で、避難をしなければいけないことを自覚することが重要であるというところをわかるようにすれば良いと思う。マイタイムラインを作ると、作ったことで安心してしまい逆効果になってしまう可能性があるためと注意していただきたい。

●事務局

承知した。

(4) 動画について

●資料5により説明を行った。

○竹内副座長

動画の3分は少し長いように感じる。40代から50代に対してリーフレットの概要を説明するにしても、2分以内が適切であると考えます。

●事務局

適切な時間を教えていただきたい。

○竹内副座長

経験則としては、1分以内が適当であると思う。コンパクトに30秒以内のシリーズを作ってトータルで2分から3分にしていくのは良いと思う。

●事務局

承知した。

◎松多座長

私も、広く視聴してもらうならば、短い動画が良いと思う。3分の動画は、深く知りたい人のためであると思う。

○竹内副座長

例えば30秒のものを複数配信する場合、全て作成しておき、短い期間で配信しておくのが良いと思う。

◎松多座長

視聴者のターゲットについての意見があるか。

○高齢者福祉課（高木）

ターゲットが40代から50代なのはなぜか。報告書では55歳以上の死者が多いと記載されている。

●事務局

中間層をターゲットにSNS等で配信することで、親世代へ間接的に伝わることを期待している。

◎松多座長

親がターゲットとなっていることをどう自覚させるかが重要である。その点を鑑みると40代から50代に限る必要があるかが疑問である。小さい子どもがおじいちゃんやおばあちゃんに対して伝えるという選択肢もある。どの層に訴えるのが効果的か検討していただきたい。

○地域包括ケア推進課（立古）

SNSで配信をするならば、誰でも視聴できる。40代50代に限定する意図がわからない。

●事務局

お見込のとおりSNSで配信すれば誰もが視聴できる。事務局の意図としては年代によって、興味を持つ映像は異なるを考えるため、40代から50代の層が興味を持つ動画を作成しようと考えている。

◎松多座長

40代から50代の層は、興味のない動画を見る機会が少ないのではないか。自分

が見たいと思えば、積極的にアクセスすると思う。その上で、動画の配信を知ってもらう仕掛けが必要であるとともに、電車の待ち時間等で見てもらえるよう短い時間が適切であると考えている。

○竹内副座長

ターゲットを絞るならば、年齢によって動画の内容を変えてはどうか。また動画へ誘導するために二次元コードをリーフレットに表記して誘導することが重要である。

●事務局

承知した。事務局で検討後、座長及び副座長と調整し1分程度の動画の作成を進める。

#### (5) 効果的な広報モデルについて

●資料6により説明を行った。

○竹内副座長

昨年度、評価者として参加した。職員の熱意や姿勢がわかった場であった。今年度も協力できる部分は協力させてもらおう。発表会の方法としては、同じような形で良いと思う。アナウンサー等のオブザーバー派遣についても併せて検討する。

◎松多座長

発表に優劣をつけるのではなく、発表者が準備期間に内容を考えてもらうということが大切である。評価はなくてもよい。ただし、事務局として事前に広報する内容の重要なポイントを伝えるべきである。そうすることで、全員が勉強することになる。形式は、昨年と同様でよい。発表内容は、リーフレットを踏まえて、実施していただきたい。

万が一、コロナ禍で集まることができない場合は、予め撮影した動画を委員が見て、意見を集約するという形で良いと考える。

●事務局

承知した。

#### (6) 避難のガイドラインについて

●資料7により説明を行った。

○竹内副座長

避難のガイドラインは、2部構成で良いと思う。

◎松多座長

各関係機関の展開方法について意見をいただきたい。また、報告書の各部分にあるつぶやきについて、各関係機関として、特有のつぶやきがあれば教えていただきたい。

○障害福祉課（都知木）

まだ先方と話はしていないが、岡山市障害者団体連合会という団体へ声かけがで

きる。障害者への注意点等のつづやきがあれば併せて教えてもらいたい。

○地域包括ケア推進課（立古）

つづやきに関してはわからないが、リーフレットを広く展開する場として高齢者向けの健康講座というのもやっている。地域の方が主体で活動していることから、健康講座を実施している場所で周知できると思う。また、我々は地域包括ケアを統括しており、高齢者の総合相談窓口というものがある。他には、職員が出向いて、催し物をするところがあるので、消防職員が行う出前講座と組み合わせることも可能である。

◎松多座長

過去にこういった取組はあったか。

●事務局

取組はない。

○地域包括ケア推進課（立古）

我々は、介護予防とか健康を本来業務で行っているため、その中の1コマに消防職員に来てもらえば、一緒にできると考える。

○高齢者福祉課（高木）

市内に約540の老人クラブがあり、ゲートボールや勉強をしている場がある。こういった場に講座で来てもらえれば、高齢者も喜ぶと思う。パンフレットや動画は、中々見てもらえないため、直接話をしていただきたい。また、コロナが来年度収まっている前提ではあるが、80歳以上の方が1,600人程度集まる敬老会がある。その場も活用できると思う。

○岡山市教育委員会学校教育部指導課（香春）

住宅火災で、消防職員の働き等を伝えるというものであれば、社会科の授業で関連させることができるかもしれない。また総合学習の時間があるので、その中で防災に取り組んでいる学校とかがあれば、リーフレットの活用が可能であると思う。まずは、広く学校へ紹介するのが良い。

◎松多座長

学校へ紹介した場合どのくらいの反応があると思うか。

○学校教育部指導課（香春）

おそらく防災教育に力を入れている学校や、消防の仕事について取り組もうと思っている学校で、1つ2つぐらいは依頼が来るかもしれない。先日消防局が行った上道中学校でのVR体験は非常に良かったので、何か伝えられるような場を持ちたいと思う。

◎松多座長

承知した。

○生涯学習課（塩瀬）

市内37の公民館で、公民館主催で高齢者の教室を開いているため、その中で実施

できると思う。昨年度、6か所で消防局のVRなどの講座をやっているが、その範囲を広げることで、協力できると思う。また市民協働も併任しているため、自治組織とのつながりがあることから、そちらもご紹介が可能である。

○女性防火クラブ連絡協議会

1つは、元気が出る会というサロンがあるため、活用できると思う。もう1つは、女性防火クラブとして、現在戸別訪問を予定している支部があるため、そのような活動から広めることができると思う。

◎松多座長

たくさんの可能性があることがわかった。引き続き協力をお願いする。

●事務局

承知した。

(7) 検討の進め方・スケジュールについて

●資料8により説明を行う。

○竹内副座長

リーフレットや動画を作る上で、検討会の間にあたるA、B期間が重要であると思う。この期間にどれだけ検証を重ねられるかで変わってくると思うため、この期間を充実させるために協力させていただく。

◎松多座長

スケジュールについては先ほど副座長からあったとおり、A、B期間を重要視しながら、進めていただきたい。

●事務局

承知した。